

解答はすべて解答用紙に書きましょう。

問題 1

まさこさんの学校で行われる学習発表会では、学級ごとに、学習したことを紹介するコーナーを設けます。まさこさんの学級は、社会科で学習した「日本の文化」を、さらにくわしく調べて紹介することに決めました。まさこさんは、「和服」を担当することになり、調べたことをリーフレットにまとめて、コーナーに来た人に配ることにしました。下の資料は、まさこさんが、【調べたことをまとめたノート】、【調べた本の一部】、【取材した近所のおばあさんの話】と、それらをまとめて作っている【リーフレット】です。資料を読んで、あとの問い(1)～(4)に答えましょう。

※リーフレット…1枚の紙を折りたたんだものなどに、伝えたい内容を分かりやすく説明したもの。

【調べたことをまとめたノート】

調べて分かったこと

〈意味〉 和服…日本人が昔から着てきた衣服。
 ⇨ 洋服…西洋から導入された衣服。
 〈作り方〉 和服…布を直線で切る。
 ぬい合わせると、平面的に仕上がる。
 ⇨ 洋服…布を曲線で切る。(体の形に合わせるため)
 立体的に仕上がる。
 〈和服の種類〉
 ふりそで・はおりはかま・ゆかた・はっぴなど
 〈和服を着るとき〉
 ○行事…お正月・成人式・七五三など
 ○伝統的な芸能…華道・茶道・歌舞伎など
 ○日本の武道…柔道・剣道など

【調べた本の一部】

「そで」というのは、服の、うでを通す部分のことです。ふだん、わたしたちが着ている洋服のそでは、体にぴったりと合っているものが多いのですが、昔の日本人が着ていた和服のそでは、「たもと」とよばれる部分がありました。
 お正月や、七五三のときなどに着る和服を思い出してみてください。そでが、ふくろようになって下がっていますね。「ふりそで」という着物などは、この部分がとても長く、足元のほうまで下がっています。和服の場合には、この「たもと」の部分までをふくめて、「そで」といいます。
 服の、うでを通す部分のことを、大昔には「ころもで(衣手)」とよんでいました。「ころも」は服のことをさす古い言い方で、その「手」の部分であることからできたことばです。この「ころもで」ということばが言いにくかったために、「ころも」の別の読み方である「そ」に「手」をつけ、「そで」というようになった、といわれています。
 (監修：汐見幸『知って びっくり! ことばのはじまり物語』から)

【取材した近所のおばあさんの話】

今は、洋服を着ている人がほとんどだね。洋服は、体の形に合わせて作っているから、活動しやすいからだろうね。それに洋服は、簡単に着られるし、洗たくもしやすいからね。
 でもね、和服は、少し大きめに作ってあり、自分の体型に合わせて、余った布を折り曲げたり、服の重ね方を調整したりして、ぴったりのサイズにすることができるというよさがあるんだよ。
 お正月や成人式、夏のお祭りのときに、和服を着ている人を見かけると、わたしはうれしくなるよ。
 日本の伝統衣しょうとして、海外からも注目されているという話を聞いたことがあるよ。



【リーフレット】

1 和服とは?

A だ!

日本人が昔から着てきた衣服を和服という。

☆代表的な和服

1 ページ

2 和服の作り方

和服は、布を直線で切って、ぬい合わせると、平面的な仕上がりになる。

和服は体型に合わせて着ることができる!

洋服は活動しやすい!

2 ページ

3 和服の種類

ふりそで、はおりはかまの他に、ゆかたやはっぴも和服である。

4 和服を着るとき

行事	お正月・成人式・七五三・夏祭りなど
芸能	華道・茶道・歌舞伎など
武道	柔道・剣道など

3 ページ

豆知識

和服の「そで」とはどの部分か。

服のうでを通す部分のことで、和服の場合には「たもと」までをふくめて「そで」という。

B

昔は「ころもで」とよんでいたが、言いにくかったので、「ころも」の別の読み方である「そ」に「手」をつけ、「そで」というようになった。

5 まとめ

今は、和服を着ている人をほとんど見ないと思っていた。しかし、調べてみると、和服にはいろいろな種類があり、行事や伝統芸能、武道などで、今でもたくさんの方が着ていることが分かった。

4 ページ

(1) まさこさんは、調べ学習のはじめに、「和服」の意味を国語辞典で調べました。辞典には、「和服」の意味と、それに対する言葉として「洋服」と書かれていました。そこで、「洋服」の意味を国語辞典で調べるとき、次のア～エの言葉は、どのような順番で出てきますか。その順番に記号をならべましょう。

- ア 洋服 イ 用具 ウ 洋風 エ ヨーグルト

(2) まさこさんは、【リーフレット】の「1 和服とは?」の部分に、「**A** だ!」と見出しを見つけました。まさこさんが伝えようとしていることは何かを考え、**A** に入る言葉を【取材した近所のおばあさんの話】から、9文字でぬきだして書きましょう。

(3) まさこさんは、【調べた本の一部】に、大きく2つのことが説明してあると読み取ったので、それぞれに題をつけ、内容を要約して【リーフレット】の豆知識のコーナーに書くことにしました。【調べた本の一部】の1、2段落に書いてあることには、和服の「そで」とはどの部分か。と題をつけています。3段落に書いてあることには、どのような題をつけることができますか。**B** に入る文を、短くまとめて書きましょう。

(4) まさこさんは、調べたことを分かりやすく伝えるために、【リーフレット】にいろいろな工夫をしています。【リーフレット】で工夫されていると思うことを2つあげ、「～こと。」という書き方で、それぞれ20字以上30字以内で書きましょう。

問題 2

放送委員のけいたさんは、給食担当の田中先生から、次の日の給食時間に読む放送原こうをわたされました。下の【放送原こう】を読んで、あとの問い(1)～(4)に答えましょう。

【放送原こう】

みなさん、こんにちは。今日は、12月3日木曜日です。今日の給食のこんだては、「だいこん菜めし」、「けんちょう」、「きゅうりのすの物」、「みかん」、「牛乳」です。今日のこんだてにある「けんちょう」は、野菜ととうふを油でいため、しょうゆで味つけたもので、県内各地で古くから食べられている山口県の郷土料理です。「けんちょうじる」「けんちん」など他の名前でも呼ばれることもあります。今日の「けんちょう」に入っているだいこんやさといも、にんじん、ごぼうは、すべて山口県産の野菜です。また、「けんちょう」と「だいこん菜めし」に使われているだいこんは、秋から冬にかけて、最もおいしくなると言われています。今日も、野菜を作ってくださいる方への感謝の気持ちを持ち、地元の新せんな野菜を味わいながら、みんなでおいしくいただきます。

(1) けいたさんは、放送原こうを読む練習をしているうちに、食材となる野菜について知りたいと思い、調べたところ、図1と図2の資料を見つけました。あとの問い①、②に答えましょう。

① 図1について説明した下の文章の(あ)に県名、(い)に数をそれぞれ書きましょう。なお、図1は、割合が多い順にならべています。

図1を見ると、収かく量が多い上位10都道府県には、北海道も九州の最も南にある(あ)県も入っており、だいこんは日本で広く生産されていることが分かります。また、上位10都道府県を見ると、その中の関東地方だけで全体の収かく量の(い)%であることも分かります。

② けいたさんは、図2の資料を見て、A県とB県でこのようなちがいはあるのはなぜか疑問に思い、田中先生にたずねました。すると田中先生は、「きゅうりは夏の野菜だからB県のようなグラフになることが多いけれど、A県では温暖な気候を生かし、時期をずらして生産し出荷する農家が多いからだよ。」と言い、図3の資料をわたしてくれました。あとの問いア、イに答えましょう。

ア A県のように時期をずらしてきゅうりを出荷すると、農家の人にはどのようなよいことがあると考えられますか。図2と図3の資料から読み取ることができる内容をもとに説明しましょう。

イ 夏の野菜であるきゅうりを冬に生産するためには、ビニルハウスで暖ぼうを使うなどの工夫が必要です。それでもA県で多くの農家が時期をずらして生産している理由を、「冬のきゅうりの生産に必要な費用」という言葉を使って説明しましょう。

(2) 農家の人々は、野菜や果物を生産する方法だけでなく、それらを輸送する方法も工夫しています。けいたさんが調べたところ、A県では、きゅうりをふくむ多くの野菜や果物を東京までトラックを使って輸送していますが、中には飛行機を使って輸送する果物があることが分かりました。下の資料は、けいたさんが、輸送に使うトラックと飛行機それぞれの便利な点をまとめたメモです。文章の(う)、(え)にあてはまる言葉を書きましょう。

<トラックの便利な点>

○目的地まで、積みかえをせずに直接運べ、国内のほとんどの場所へ届けることができる。

<飛行機の便利な点>

○遠くまで運ぶ場合には、トラックと比べて(う)ので、野菜や果物の(え)を保つことができる。

(3) 田中先生は、「明日の給食に出るみかんは山口県産だけど、最近は、外国から多くの果物を輸入しているよ。」と教えてくれました。そこで、あらためて調べたところ、図4の資料を見つけました。図4から読み取ることができる内容として正しいものを、次のア～エの中から2つ選び、記号で書きましょう。

ア 果物の国内生産量は、1970年よりも2010年の方が多。

イ 1970年、1980年、1990年、2000年、2010年を見ると、果物の輸入量が国内生産量より多いのは2000年と2010年である。

ウ 1970年、1980年、1990年、2000年、2010年の中で、果物の国内消費量が最も多いのは、1980年である。

エ 果物の国内消費量と国内生産量の差は、1970年よりも、2010年の方が大きい。

(4) 【放送原こう】の_____部には、「野菜を作ってくださいる方への感謝の気持ちを持ち」と書いてあります。日常生活において、あなたが感謝したいと思っていることについて、具体的な場面と相手を取り上げ、200字程度で書きましょう。

注意

- 1行目の1マス目から書き始めてください。段落を設けずに続けて書きましょう。
- 書き終えたあと、つけ加えたり、けずったりしてもかまいません。そのときは全部消して書き直す必要はありません。次の例のように直しましょう。

(例)

また、今までにしてきたことを生かすこと

図1 だいこんの都道府県別収かく量の割合 <2013年>

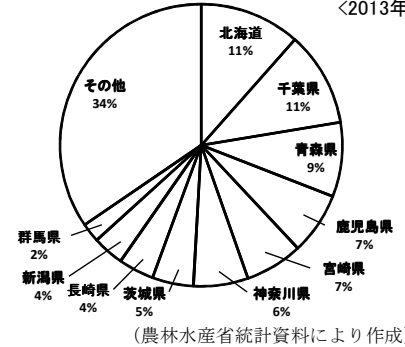


図2 東京都の市場に入荷されるきゅうりの量 <2013年>

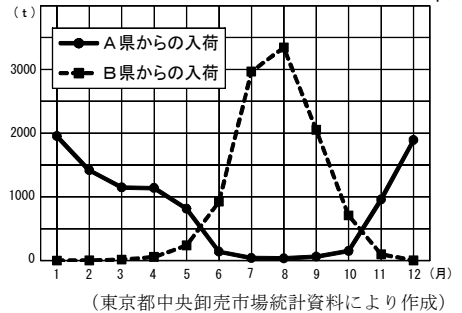


図3 東京都の市場でのきゅうりの平均価格(1kgあたり) <2013年>

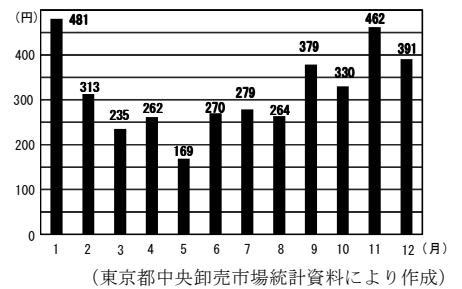


図4 果物の消費量・生産量・輸入量の変化

